

## 【 天国への招待状 】 （礼拝メッセージ）

### ● ルカの福音書 16章19～31節

「古今和歌集」や「伊勢物語」に出てきます、平安時代のイケメンとして有名だった 在原業平（ありわらの なりひら）という人の和歌に、このようなものがあります。

つひに行く 道とは かねて 聞きしかど

きのう けふ（今日）とは おもはざりしを

ついに行く道、いつかその日がやってくる ということはわかってはいたけれど、その日が、昨日や今日のこととは思わなかったのに・・・・・・ と歌っています。

私たちが、100年後まで生きている —— ということは、絶対にないですよネ。今 生きている、すべての人は、100% の確率で、いつか死んでいきます。

100年後どころか、50年後、20年後、いや、1年後、あるいは<sup>あした</sup>明日、<sup>いのち</sup>生命がなくなるということだって、あっても不思議ではない、そのような今の世の中です。

毎日毎日、すべての葬儀場で、お葬式のない日なんて、ないのではないのでしょうか。

新聞やテレビなどのニュースでも同じで、毎日毎日、たくさんの人たちが亡くなっていきます。

今、皆さんが元気だから、こういうことを話題にするのですが、私たちは、この地上での生涯を終わって 死んでしまったら、どうなるのでしょうか。どうなると、あなたは思っておられますか。

もし、皆さんが、仏教を信じておられる方だとして、考えてみましょう。

今は、クリスチャンで、仏教徒ではない、とおっしゃる方も、かつては、しっかりと、仏教を信じて、お寺参りをされたり、あるいは、仏教の影響のもとで生活されていたはずです。

うちの家は仏教だから・浄土真宗だから・・・・・・と言って、仏教が家の宗教だ という言い方さえされます。

浄土宗・浄土真宗・日蓮宗・創価学会・禅宗（禅宗の中でも、臨済宗・曹洞宗・黄檗宗）、その他いろいろ。真如苑も含まれると思いますが・・・・・・。

東本願寺や西本願寺・南禅寺・大徳寺・妙心寺・比叡山延暦寺・高野山金剛峯寺・・・・などを参拝されたり、西国 33 カ所巡り、あるいは四国 88 カ所巡りなどをされたり・・・・いろいろ熱心にされているのではないのでしょうか。

そういう仏教徒である皆さんに申し上げますが、そういう皆さんが、亡くなられたあと、「天国」に行かれるということは、絶対にありません。

「天国」に入ることは、絶対に出来ません。

どうしてですか。お葬式などに行ったら、「天から、私たちを見守っていてネ」とか、「天で ゆっくり休んでください」「天に行って、病気の間 飲めなかった、大好きなお酒を、思いっきり飲んでください」・・・・などと、言っているではありませんか？

どうして、「天国」に入ることが出来ない、などと言うんですか！

仏教を信じている人たちが、「天国」に入ることは、くり返して言いますが、絶対に出来ません。

どうしてか と言いますと、「仏教」には、「天国」などという死後の世界についての教えはないからです。

もし言うとしたら、「極楽浄土」に入るのだと言わなければなりません。

仏教徒の皆さんは、「天国」には入ることは絶対に出来ませんが、入れるとしたら、それは「極楽浄土」です。

そして、その「極楽浄土」は、天にあるものではありません。天にある世界ではありません。「西国浄土」です。「浄土」と言われる場所は、今、私たちが住んでいる世界・「娑婆<sup>しゃば</sup>」と言われる世界から、西の方角、西へ西へ、更に更に 西へ西へ進んで行って、中国を過ぎ、インドを過ぎ、アラビアやヨーロッパの国々を過ぎ、100 や 200 の国々を過ぎるところではありません。

更に更に、西へ西へ西へと進んで行って、10 万億の国土を越えた所。

10 万の国土ではないですよ。1 億の国土でもないんですよ。10 万億の国土を越えていった所に、「極楽」という浄土があって、そこに阿弥陀如来様がおられるのです。

しかし、大変なことです。あなたが仏教徒だからといって、死んだら 誰でも、全員が極楽浄土に行けるとは、決して教えていませんよ。

「地獄」があります。「極楽浄土」に行ける人は、生前の行ないが正しかった人だけです。

口先だけの、行ないが伴わない、形だけの仏教徒では ダメです。「極楽浄土」には行けません。

人、そして、人だけではありません。生きとし生けるもの すべては、生前の行ないによって、6つの道と書く「六道」が待っています。

「極楽浄土」に行ける人は、幸いですが、行けない人は、①地獄への道・地獄へ行くのか、②餓鬼への道・餓鬼道・鬼に生まれ変わるのか、③牛や馬・犬や猫・虫・ゴキブリなどに生まれ変わるのか、あるいは、もう一度、④人として生まれ変わって、やり直すのか、あるいは、⑤阿修羅に生まれ変わるのか —— いずれかに生まれ変わって、生存を繰り返していきます。

「六道輪廻<sup>りんね</sup>」、極楽浄土に行けるまでは、この輪廻を繰り返していきます。

今、世界の人口は 74 億ですが、そのすべての人たち、そして、その何倍もの 100 億・200 億以上の生きものすべて。人及び生きとし生けるものすべては、実は、極楽浄土に往生できなかったもの達が、生まれ変わって生存を繰り返しているのです。

あなたも・私も・みんな、仏教でいうと、そのような存在なんですよ。

人はみな、これまで、輪廻の中で、実は、死を何度も何度も経験し、又、生・生まれて生きることを同じように、何度も何度も経験してきている存在なのですが、しかし、私たちが、人として生まれる前は何だったのか。犬だったのか・蜘蛛だったのか・鬼だったのか、前歴は、何も覚えていない存在です。

しかし、はっきりしていることは と言いますと、「極楽浄土」に往生出来なかったことだけは、確かなことです。極楽往生して、極楽浄土にいるとしたら、今、人として、この世に生まれて来ているはずがありませんから。

今年（2015 年）は、弘法大師・空海上人が、高野山に 真言宗・金剛峯寺を開かれて、1200 年目の記念の年です。

その弘法大師・空海上人が言っておられます。

「生まれ 生まれ 生まれ 生まれて、生の始めに暗く、

死に 死に 死んで、死の終わりに冥（くら）し」

—— 生の始めに暗く、死の終わりにも くらし。 くらし。よくわからない。

生のことも、死のことも、よくは わからない。—— と、正直に告白されていますよ。

聖書は、このように言っています。

「自分が どこへ行くのか 分かっていない人は、やみの中を歩いているのだ。」

やみの中を歩いているのだ！ 何が真理なのか分からないで、手さぐりで歩いているのだ！

—— そのように言っています。

もし、皆さんが、まじめに、仏教を信じておられる方なのだとしたら、おたずねしたいと思います。

本当の、本当に、「極楽浄土」って、あるんですか。

そして、その「極楽浄土」に、あなたは、本当に、行けるのですか。

もし、本当の本当に、「極楽浄土」があるのでしたら、本当にそこに行けるように、真剣に努力されて、行かれたらいいと思いますし、私には、これ以上、何とも 皆さんに申し上げるつもりはありませんが、くり返し言いますが、本当の本当に、「極楽浄土」「極楽」があるのでしょうか。

あるのか ないのか、わからない —— というような、いい加減なことでは困りますよ。

その時になってみて、「極楽」がある・「極楽」に行ける、と思っていたのに、死んでみたら、実は そんなものはなかった！ 全然違った所に来てしまった！！ —— というようなことだったら、大変なことになりますよ！

「極楽」がないからと言って、簡単に、それでは「天国」に入る、などということは、絶対に出来ません。

あなたが死んでから、いることになる場所から、「天国」へは、その間に大きな淵があって、それを越えて行くことなど、出来ないのです。

**「天国」に入るには、当然のことですが、入国のビザが必要です。** 入国許可証・ビザのない者は、「天国」に入ることが出来ないのです。あたり前のことです。

「地獄」には入ることが出来ます。仏教でも、キリスト教でも、「地獄」があることは記され・教えられていますし、警告されていますから、「地獄」には入ることが出来ます。しかし、「天国」

に入ることは出来ません。

私は仏教徒ではありません。神道の神を信じています。——とおっしゃる方についても、同じです。「天国」に入ることは、絶対に出来ません。

「天国」に入ることが出来ないどころか、神道の神を信じているという人が死んでしまった後、どのようになるのかは、よくわからなくて、死後のことについては、神道では、見解が分かれていますのです。不思議な話なのですが、実はそうなのです。

やおよろず 八百万の、多くの神々のことが記されています「古事記」という書物に、有名な、伊耶那美神が登場してきますが、この方は死んで 黄泉国<sup>よみのくに</sup>へ行きましたから、死んだらみんな 黄泉<sup>よみ</sup>に行くのかな —— と思うのですが、いやそうではない。この世に留まって、家族や子々孫々を見守るのだ —— という意見があります。

いやいや そうではない。その地域を鎮<sup>しず</sup>めている氏神がつかさどる、その支配下に入るのだ、という意見もあって、実は、神道の神を信じている人たちは、死んでから どうなるのか、よくわかっていないのです。大変です。どうされるんでしょうか。

聖書が言っていることをもう一度、くり返しますが、  
「自分が どこへ行くのか 分かっていない人は、やみの中を歩いているのです。」

いずれにしても、伊勢神宮・北野天満宮・伏見稻荷大社・熊野大社・えびす神社・靖国神社などの、神道の神を信じている人たちは、死んだあと、魂は、何らかの形で永遠に存在するのですが、絶対に、「天国」には入ることは出来ません。

いえいえ、そういうことではないはずです。

反対に、仏教や神道を信じておられる人たちは、そうではない人たちが、そのままいけば、「極楽浄土」のような すばらしい所には行けないのですから、とりわけ、「天国」に行けるなどと思っている、哀れなクリスチャン達を、必死で説得してくださって、しあわせな生活や、しあわせな未来を迎えられるように、確信をもって教え、導いていってくださらないと困ります。

でも、どうなのでしょう。クリスチャンである私に、そのようにして下さった方は、一人もいません。

どれも正しい・正解！ということではないはずです。

もしかしたら、こういうことではないですか？

仏教徒は「極楽」へ行って、クリスチャンは「天国」へ行って、神道を信じている者は、この世にとどまって 家族や地域を見守るのだ —— ということでは ないのですか？

でも、そのような、いい加減なことは、どの宗教も教えていないのです。

でも、これら、どの宗教にも共通していますのは、「よみ」とか「地獄」の存在です。そこは、誰もが行きたくない所です。

苦しみ場所です。こんな苦しみ場所には、誰も来ることのないように と思っている、そのような場所です。

特に、愛する家族や、きょうだい達、友だちなどが、決して来ないように、と願っているような場所なのです。

聖書では、「よみ」のことを「ハデス」という言い方で記していますが、苦しみ場所です。

生きている間、自分では いい目ばかりしてきて、「天国」に行けなかった金持ちが、炎の中で、苦しみもだえながら、「苦しくて たまりません。水で冷やしてほしい！」と叫んでいます。火の炎・すさまじい炎です。

「きょうだい達が、彼らまで、こんな苦しみ場所に来ることのないように」と、願い、訴えています。

そして、「よみ・ハデス」と「天国」の間には、大きな淵があって、「よみ」から「天国」の方へ越えて行く、などということは出来ないのです。

生きている間に、まだ地上での<sup>いのち</sup>生命がある間に、「よみ」などに行くことにならないように、神の教え・警告に しっかりと耳を傾けて、悔い改めるべきことは悔い改めて、準備しなければなりません。

—— そのように、言っていますよ！

「極楽浄土」があるのかないのか、あなたがどのように思っておられるのかは知りませんが、先に亡くなられた方々が、今、仮に、「極楽浄土」におられるのだとしたら、今のあなたが、すでに極楽におられる人たちのために、何かをしなければならない というようなことはありません！ もうすでに、すばらしい所におられるのです。

しなければならないのは、むしろ、あなた自身のことです。

「極楽浄土」をめざしていると言いながら、入ることが出来ないで、輪廻をくり返している あなた自身のことを真剣に考え、心配しないといけないのではないのでしょうか。

ましてや、先に亡くなられた方が、今、「仏教」でいうところの「地獄」におられるのだとしたら、もっと問題は深刻です。

先ほどお話した、聖書の、「よみ・ハデス」で、

「この炎の中で、苦しくてたまりません。きょうだい達が、こんな苦しみ of 場所に来ることのないように」と 願い、叫んでいたような状態と、まったく同じ状態です。

「こんな所に来ることがないように」と、あなたのことを心配されているはずです。

今、仏教でいう「地獄」で苦しんでおられるのだとしたら、大変なことです。死後のこと・しんでしまった後のことは、今のあなたが 何かしたら、たとえば、仏壇の世話をしたり、何回忌ごとの法要をしたり、お墓参りをしたり・・・・・・ というように、あなたが何かしたから、どうにかなるという状態ではありません。

「極楽浄土」におられるにしても、あるいは、「地獄」におられるにしても、あなたが何かしたから どうにかなる、何かしないと困るというようなことは何もありませんし、霊の世界のことは、あなたには 実は、何も出来ません。

あなたが、今一番しなければならないこと・心配しなければならないことは、先に亡くなられた人たちのことではありません。あなた自身のことです。あなた自身についてです。人のことではない、自分自身のことです。

あなた自身が、どこへ行くのか。どこに行こうとしているのか、ということについてです。

そのことを、心配しなければなりません。

あなたに残された時・あなたの持ち時間は、多くはないかもしれませんよ！

ありわらのなりひら  
在原業平が言うように、

「ついに行く 道とはかねて聞きしかど きのう 今日とは おもはざりしを」

又、このような和歌・お坊さんの僧正遍照がうたった和歌がありますよ。

「明日ありと 思う心の あだ桜 夜半に嵐の 吹かぬものかは」

あしたがある、あしたがあると思って、先のばしにしていると、夜中に嵐が吹いてきて、散っ

てしまう、あとのまつりだ、ということがありますよ、と 警告しています。

しなければならない大切なことは、あしたそのことをしよう ということではなくて、まさに今です。

今が、恵みの時です。「あした あした」と言って、しなければならないことを先送りする者には、永遠に、「今日」という恵みの時は、やっては来ません。

あなたが仏教徒で、「極楽浄土」をめざして歩いておられるのであれば、いい加減に考えないで、真剣にそうなさってください。死んだら誰でも「極楽」に行けるなどとは、仏教でも教えてはいないのでから。

西方浄土・十万億の国土を越えていった所にある「極楽浄土」をめざして、毎日を、真面目に、真剣に、歩いていってください。

でも、質問ですが、本当に「極楽」ってあるのでしょうか。あるのなら、是非 行かれたらいいのですが、本当の本当に、「極楽」ってあるのでしょうか。

あると思っていたのに、あなたが亡くなったあと、実は、そんなものはなかった！ —— というのでは、とりかえしがつかない、大変なことになってしまいます。

**本当に、「極楽」があるのでしょうか？**

どうして そうだと、確信をもって、そのように言えるのでしょうか？

「極楽」というのは「仏教」の教えですが、実は、仏教徒は 世界人口 74 億のうちの 5.7% 4.2 億人の人たちです。世界人口全体から見れば、わずかな人たちです。

日本のいると、何か「多い」と思ってしまいますが、世界全体から見れば、わずかな人たちです。

74 億 - 4.2 億 = 69.8 億 の人たちは、「極楽」の存在さえ知りません。そんな言葉さえ知りません。「極楽って、な～に？」という世界です。

くり返して質問しますが、本当の本当に「極楽」があるのですか。あると思っておられるだけのことでないのですか。どうして、確信をもって そのように言えるのですか？

私は、すべての皆さんに、是非、「天国」に行っていただきたいと思っていますので、「天国」

のことを お話させていただきます。すべての皆さんへの「天国への招待状」です。

私たち人間は、「一度死ぬことと、死後のさばきを受けることが定まっている」と、聖書は警告しています。

私たちは、地上での生涯を終わったあとは、「天国へ行くか」あるいは、「よみ・ハデス」に行き、そして 最終的には、最後の審判・さばきの結果、「地獄・ゲヘナ」に行くことになります。「天国」か「地獄」か、そのどちらかに行くことになります。

このような「聖書」やキリスト教の教えは、世界中の あらゆる国や あらゆる地域に伝えられています。

クリスチャンの人口は、世界人口の 約 32.3% 23 億 9 千万人であると言われています。

世界人口の 3 分の 1 の人たち。3 人に 1 人・約 24 億人の人たちが、そのことを信じています。確信をもって、毎日を歩んでいます。「天国」をめざして歩んでいます。

誰にでも、いつか、その日がやって来ますが、死んだら、誰でも「天国」に行ける —— というわけではありません。

「天国」は、神が共におられる、きよい きよい場所です。

今のままのあなたでは、そのような、きよい きよい場所である「天国」に行くことは出来ません。「天国」に入ることは出来ません。

さあ、どうされますか？

「備えなければ、憂いあり」 反対に、

「備えあれば、憂いなし」

もし、あなたに、「備え」が出来ていなくて、でも、「天国に行きたい」あるいは「関心がある」と思われましたら、早速、準備を始めていただきたいと思います。

🕒 は恵みの時、🕒 は救いの日です。🕒 です。

「明日ありと思う心の あだ桜」です。

「きのう 今日とは 思わざりしを」です。

あなたがいくら、「天国に行きたい」「天国に入りたい」と思われても、残念ながら、今のまま

のあなたの状態では、「天国」に入ることは出来ません。

あなたには、「天国」という きよい きよい国に入るビザ・入国許可証が、発行されていないからです。

あなたの心や魂は、神さまの目から見れば、どろどろで、よごれきっていて、罪にまみれてしまっています。

日本の国の国民としては、日本の国の法律に照らして、清廉潔白・罪のない者と認められたとしても、「天国」・神さまの国の法律、「律法」と言っていますが、天国の法律に照らしてみますと、あなたの心は、罪に汚れきっています。

きよい きよいお方であられる 主なる神の前に、堂々とお出ることなど出来ません。

主なる神、天地を創造された創造主<sup>しゅ</sup>、まことの神の前では、あなたも私も、罪によごれきった、罪まみれの、どろどろの心・まっ黒の心の状態の<sup>つみびと</sup> 罪人です。

罪や悪を喜び、受け入れ、愛しているような、罪だらけの<sup>つみびと</sup> 罪人、罪を犯している犯罪人です。

きよい きよい神の前に、「私はきよい。私は罪など犯していない！」などと主張出来る人は、世界 74 億の人々の中の ただの一人として、いません。

私たちの心は、主なる神の前に、罪に汚れきっています。

不品行、汚れ、好色、エロ・グロ雑誌・本・ビデオ・映画・インターネット。姦淫・浮気、人工中絶・堕胎、敵意、殺意、悪意、陰口、悪口、ウソ、ごまかし、不正、盗み、万引き、暴力、いじめ、差別、泥酔、度をこした遊びごと、ギャンブル、高ぶり、ごう慢・・・・等々々。

私たちは、人の心を傷つけ、家族を悲しませ、自分自身をも苦しめてきました。

さまざまなものに、答えを求めました。いろんな人にも相談しました。

趣味や娯楽で、気分をまぎらせてきました。心の空洞を埋めようとしてきました。

まじめに、精いっぱい生きてきたのに、心の平安はなく、むなしさ・空虚さ・あきらめ・罪責感・重荷・思い悩み、そして、死やさばきに対する恐れにおののいてしまいます。

生きる意味、学ぶ意味、あくせく働く意味も わかりません。

すべて、原因は、あなたの心の中にあって、あなたを支配してしまっている罪の問題が、解決出来ていないからです。

そして、ついには、あなたには、死と、罪に対する神のさばきが待っている —— と言うので

す。

この、あなたには、どうすることも出来ない、罪の問題に答えを与え、「天国」に入るこの道を開いてくださったのが、神ご自身が人となられた「イエス・キリスト」です。

お釈迦さんであっても、空海上人であっても、親鸞や日蓮であっても、自分自身がおぼれている人間であるのに、他のおぼれている人を助けることなど、出来ません。

きよい きよい神ご自身、神の御子 イエス・キリストが、本来、私自身が、罪に対する神のさばきを受けなければならないのに、私の身代わりになってくださって、十字架のさばきの刑を受けてくださいました。

私の身代わりとなって、死んでくださいました。

ですから、そのことを感謝して・信じる私には、過去・現在・未来の すべての罪の問題と、そのことに対する神のさばきの問題は、解決したのです。解決済みにしてくださったのです。

ちょっと、こちらをご覧ください。

① こちらの手が 私です。

② 右手が イエス・キリストです。



①



②

③ 私の上にあった 重荷・かずかずの罪は、

④ 全部、イエス・キリストが 引き受けてくださいました。

⑤ 私の上には、追求を受けるべき罪は、何も残されてはいません。

又、これから、罪を犯すことになると思いますが、そのような罪も みんな、救い主 イエス・キリストに おまかせです。



③



④



⑤

こういう状態でなら、あなたも私も、きよい きよい「天国」に入ることが出来るのです。「天国」に入ることが、許されるのです。

イエス・キリストを、このようなお方、神ご自身であり、私の罪と死からの救い主として、信じ・受け入れるならば、「天国」・神の御国<sup>みくに</sup>への「入国許可証・ビザ」が発行されます。

「ありがとうございます。感謝します。」と言って、このことを 子どものように、信じ・受け入れる者には、誰であっても、ビザが発行されます。

まだまだ、神さまのことが、よくわからなくても、大丈夫です。

私が、皆さんの代わりに今、祈ってみますから、「私も、その通りだ」と思われましたら、最後に、いっしょに「アーメン」と、おっしゃってみてください。

「アーメン」と言いますのは、「その通りです。本当の気持ちです。」という意味です。

それでは、祈りたいと思いますが、はたして、皆さんの思いと一致するでしょうか。こんな祈りです。

「天の神さま。私は、あなたの前に、けがれきった罪人<sup>つみびと</sup>です。こんな私は、さばかれて当たり前ですが、イエス・キリストが十字架で、私の身代わりになって、さばきを受けてくださり、死んでくださり、そして 復活されて、その永遠のいのちを プレゼントしてくださることを、ありがとうございます。

今、私は、イエス・キリストを、私の罪と死からの救い主、永遠のいのちを与えてくださる恩人として、信じ・受け入れます。

こんな私ですが、どうぞ よろしくをお願いします。

今日から、私の人生を、これまでとは違った、有意義で、しあわせなものとしてください。そして、いつの日か、この私を「天国」へ招き入れてください。

私にも、「天国」への入国許可証・ビザを発行して下さいますよう、よろしくお願いします。」

さあ、どうでしょうか。

「その通りです。私の本当の気持ちです。」と思われましたら、「アーメン」と おっしゃってみてください。 **「アーメン」**

感謝します。

いつの日か、「天国」で 皆さんと会えるようでしたら、うれしいです。

この地上で、だけではなく、「天国」で、又、お会いしたいと思います！

ひとこと、お祈りいたします。

「主なる神さま。この礼拝の時を感謝します。

ここに集われている すべての人たち・全員を、「天の御国<sup>みくに</sup>・天国」へ導いていってください。

私たちの神、救い主、イエス・キリストのお名前によって、お祈りします。

アーメン 」